

変化

2年C組の教室に入ると、

二酸化炭素 + 水 + 光のエネルギー → デンプン + 酸素
について考えていました。

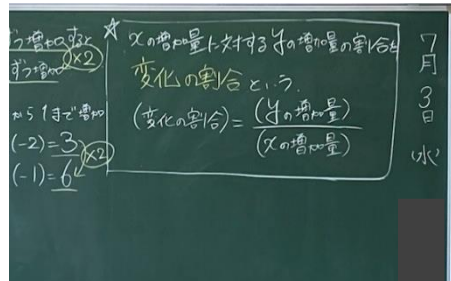
何のことでしょうか？そうです。光合成のことです。光合成は光のエネルギーを使ってデンプンをつくりだします。デンプンは植物の呼吸や成長のエネルギー源として使われます。すなわち光エネルギーが化学エネルギーに変化したということになります。

光合成によってつくられたデンプンが糖へと変化し、果実に送られて甘くなります。先日給食で出たトウモ



ロコシもその一つです。このトウモロコシは、清瀬市の農家松村さんの作品です。ピュアホワイトという品種です。7月1日(月)の1校時に、1組は食育の一環で「トウモロコシ」について学びました。解説は栄養士さんです。クイズあり、VTR あり、実物の茎の観察あり、盛りだくさんでした。「トウモロコシの実の数は？」正解は「必ず偶数個になっている」これには驚きました。「地産地消」についても学ぶことができました。2校時は、ピュアホワイトの皮むきを体験し、きれいに皮がむけたところで、給食の調理員の皆さんに渡しました。つまり、写真の給食の調理を1組のみんなが手伝ったのです!!

1年C組は数学です。一次関数について取り組んでいました。黒板には「変化の割合」について記述されています。 x の増加量に対する y の増加量の割合を「変化の割合」といい、一次関数においては、変化の割合が一定です。中学生の頃、「変化」という言葉と相反する「一定」という言葉が同時にできて、素直に受け入れられない小生がいたことを思い出しました。



2年A組の体育です。走り高跳びの授業でした。

低い設定のバー、高い設定のバーの2か所が用意されていました。人数のわりに、用意された場所が少ないと周りを見渡すと、なんとバーを支持する支柱とエバーマットだけが用意された場所があるのです。



助走や跳躍姿勢について自信のない生徒たちが、バーを気にせずに練習するために用意されていました。変化にとんだ設定です。授業終了7分前になると片付け開始です。重いマットを声を出しあって生徒同士で片付けていました。雨に打たれぬよう自転車置き場に格納するのですが、その重さでうまく納まりません。筋骨隆々の林先生が手伝えはよいのですが、生徒の力を信じ、生徒に任せています。見守りの眼差しを注ぎつつ、声をかけていました。「重いよね。大変か？」

我々教員の生徒たちに対する期待と眼差しはいつも 変わりません。